

目指す学校像	「通ってよかった、大谷小！」と児童が思える学校
--------	-------------------------

重点目標	1 児童の基礎学力の定着と教員の指導力を向上させる学校 2 きれいで安全で、児童にとって楽しい学校 3 コミュニティ・スクールの推進と保護者や地域に開かれた学校 4 教職員のミドルリーダーを育成し、服務規律を遵守する学校
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標				年度評価			実施日令和6年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査では、国語・算数ともに市・全国の平均を下回っている。 ○学習に対して意欲的に取組む児童も多いが、学習の積み重ねがなく、意欲の低い児童もいる。 ○基礎学力向上の取組を行っているが、担任によって違う。 ○教員は、経験の少ない者が多い。  (課題) ○国語と算数を中心に基礎学力を向上させる取組みを学校全体で行う。 ○学習に向かう意欲や姿勢が十分ではない児童がいるので、学習の習慣化や学習に向かう意欲を高める。	・児童の基礎学力の定着	①国語や算数について、ドリルパークやスタディサプリを学習の一部や家庭学習で積極的に活用させ、学びの自立と個別最適な学びを推進する。 ②高学年は教科担任制を行い、教員の専門的な指導により、「わかる」「楽しい」授業を行う。	①端末活用状況について、週3回以上を7割にする。 ②6年担任のよい授業のアンケートで目標値を超える結果にする。 ③児童の学校評価「学習の定着」の「よくあてはまる」の回答を70%にする。				
		・教員の指導力の向上	①基礎学力向上に関する研究授業を通して、児童の学力を向上させる方策を明確にした研究を行う。 ②タブレットパソコンを授業で活用するためのエバンジェリストによるタブレットの研修を推進する。	①市教委より指導者を招いての授業研究会を2回実施する。 ②エバンジェリストによる毎月1回程度、対面またはTeamsによる研修や情報交換を行う。				
2	(現状) ○保護者の学校評価で「安全きれいな学校」の「よくあてはまる」の回答が24%と低い。 ○毎年、不良箇所を修繕し、児童への清掃指導を行っているが、廊下や階段のゴミが目立つ。 ○6月末現在、いじめ案件が数件、長欠児童も数人いる。  (課題) ○学校が綺麗で生活しやすい環境を整えるため、児童への清掃指導の充実と保護者との協働による環境整備を行い、児童、教員、保護者が一緒になって、学校美化に取り組んでいく。 ○学年や学級において、楽しいイベントの開催や児童の自己肯定感を高める工夫が必要である。	・きれいで安全な学校	①教職員と保護者と連携した環境整備を行う。 ②教職員も一緒に行いながら、児童へ清掃指導を行う。 ③毎月の安全点検による不良箇所の確認・修繕・見届けを実施する。	①教職員と保護者との連携した環境整備を年2回実施する。 ②保護者の学校評価の設問「安全きれいな環境」について「よくあてはまる」の回答を30%にする。				
		・児童が楽しい学校	①全校朝会で校長から児童が自信をもてるように褒める場面を作る。 ②児童が楽しめる学年のイベントを各学期1回開催する。 ③児童が困っている事について、心と生活のアンケート等により早期に発見し、担任、管理職、学年主任、SC、SSW、さわやか相談員などで組織的に対応し、保護者とともに早期に解決する。	①全校朝会で校長より児童のよいところを毎回紹介 ②児童・保護者の学校評価の設問「大谷小でよかった」の肯定的な回答を90%にする。				
3	(現状) ○コミュニティ・スクール2年目で、学校運営協議会による支援や協力体制が整った。 ○保護者の学校評価の設問「学校の様子の伝達」について、「よくあてはまる」の回答が前年度25%と評価が低かった。  (課題) ○学校運営協議会でどのような話し合いが行われているのかを周知したい。 ○保護者の学校評価の設問「学校の様子の伝達」について、「よくあてはまる」の評価を高めたい。	・コミュニティ・スクールの推進	①学校運営協議会で協議された内容をスクールサポートネットワーク協議会で共有し、地域が学校の支援を行う。 ②文書でコミュニティ・スクール(学校運営協議会)の協議内容を保護者や地域に発信する。	①学校運営協議会の協議内容を年間3回情報発信する。				
		・保護者や地域に開かれた学校	①学校だよりやホームページで児童の活動の様子を発信する。 ②感染状況や児童の教育活動に係る情報を安心メールにより各保護者へ配信する。	①年3回、懇談会で保護者同士の情報交換・意見交換の場を設ける。 ②保護者の学校評価の設問「学校の様子の伝達」について、「よくあてはまる」の回答を前年度25%から30%に上昇させる。				
4	(現状) ○平均年齢が約36歳、平均経験年数が約11年と比較的若い教員の学校である。 ○在校年数5年以上が2割、産育休が7人いる。 ○教職経験の浅い教員が多く、生徒指導や保護者対応など十分ではない。 ○4月時間外在校時間80時間以上が14人いる。  (課題) ○学年主任の後任をできれば校内から出せるように教員の資質向上をさせたい。 ○児童数が多く、若い教員も多いので、危機管理意識を高める必要がある。	・教職員のミドルリーダーを育成し、服務規律を守る学校	①事故・不祥事防止のためのチェックシートにより、一人ひとりが服務規律の確認を行う。 ②管理職による教室訪問・授業観察を行い、人事評価の面談等で指導・評価する。 ③時間を意識して業務を遂行できるように、終了時刻を明示した会議・仕事等を行う。 ④毎月、学年ごとのノー残業ウィークを設定する。 ⑤面談を通して、管理職や学年主任へのキャリアアップを薦める。	①事故・不祥事等防止のためのチェックシートによる確認を毎月行う。 ②教職員の学校評価の設問「大谷小で働けてよかった」の教職員の「よくあてはまる」の回答を30%にする。 ③12月の時間外在校時間80時間以上を5人以内にする。 ④管理職や学年主任の候補を3名以上育成する。				